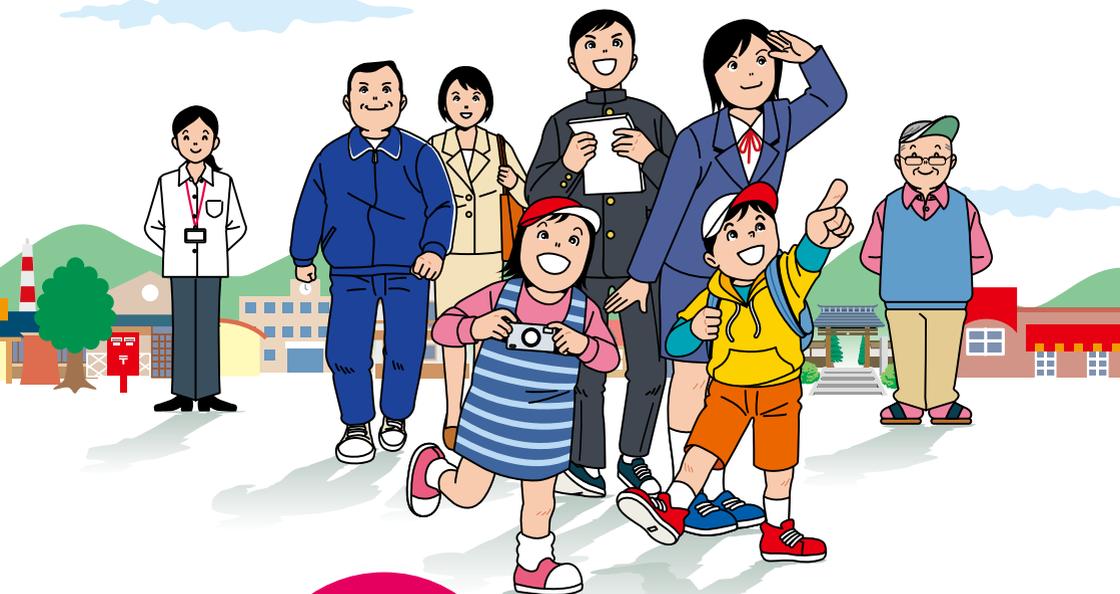


# 福祉教育 実践ガイド



枠をはずして  
みんなが  
ワクワク!



## もくじ



- 「福祉教育って……」 その「つぶやき」、わけあいましょう！ …………… 2
- 実践レポート No.1 長野市立綿内小学校 3年礼組 …………… 4
- 実践レポート No.2 長野市立柳町中学校 2年「柳中セミナー」 …………… 7
- 地域に飛び出せば、こんな福祉教育もできるかも？ …………… 10
- 「ごちゃ混ぜの地域はまなびの宝庫」長野県社会福祉協議会 …………… 12
- 資料「学校教育における教育課程・学習指導改善の目標」長野県教育委員会 …… 13
- 地域と学校 一緒にワクワク！ 社協と一緒に考えましょう！ …………… 14

# 「福祉教育って……」

## その「つぶやき」、 わけあいましょう！

教科の時間も足りないうえに、人権教育、キャリア教育、環境教育、食育、情報教育、地域教育……正直、「福祉教育」ばかりやってるわけにいきません！

福祉教育は必要と思うけれど、他の先生の協力が得られなくて……。

この冊子の13ページ、教育委員会の資料を見て！地域のまなび、すべての土台だって書かれていますよ。

地域では課題がごちゃ混ぜになっています。地域にまなべば、そこでいろんなまなびができてしまうかも。

きちんとした指導計画をたてられない授業、結果の予想のつかない授業は出来ないのが現実……。

その「計画」は誰のためのもの？まなびの主役は誰だっけ？主役はそれでいきいきしていますか？

継続してできればいいと思う。でも、単発イベントで終わってしまっ……。

地域の人はずっとそこに生きてます。仲良くなれば、学校の外にまなびが続く！

着任したばかり。「地域と交流を」といわれても、どこに何があって、誰がいるのか……。

だからこそ、地域でまなぼう！一緒にさがしに行きましょう！

「福祉」っていうテーマになかなか興味をもってくれないんです……。

「福祉」＝高齢者、障がい者？そんな枠をはずして考えてみましょう。

ボランティア・コーディネーター（社協）

地域みんなが先生であり生徒。かわりあって生きてってそういうこと。それを肌でまなぼう。みんなが出会いのきっかけを待っています。

地域の人

だったら出会いの場を作っちゃおう！地域にたくさん、いろんな友達がいれば、不審者の入り込む余地もありません。

今は子どもにかかわろうとすると「不審者!？」って、通報されちゃう世の中で……。

クラスにちょっと気になる同級生がいるんだけど、先生うまくまとめてくれるのかな……。クラスのお友達のおうちの人もほとんど知らないし……。

クラスは子どもたちのちいさな社会。その中にも課題があるし、宝物もある！気になることをまなびにかえるアイデア、一緒に考えましょう。

まずは枠をはずして考えてみよう！教室の枠、学校の枠、福祉の枠。「つぶやき」を共有して、話しあってみよう！そこからワクワクがはじまる！

実践レポートは次のページに!!  
ワクワクをのぞいてみよう!



# 長野市立 綿内小学校 3年礼組

高齢者、赤ちゃん、障がいのある人、外国から来た人など地域にはさまざまな人が暮らしています。綿内小学校3年礼組は、地域に暮らすさまざまな人と関わりながら、地域とともに子どもが育つ取り組みをしています。



すぐに仲良くなれるよ。ほら、積み木だよ。

## あひるっこ(未就園児サークル)との交流

おにいちゃんの背中は楽しいなあ～。

うう……お、重い。

最初はドキドキ、でも小さい子はかわいいなあ～。  
地域には小さい子もたくさん暮らしているよね。小さい子と一緒に遊んでいると優しい気持ちになるよ。お母さんたちも仲良しになるんだ。

## 結婚してロシアから長野に来たオレシャさんとの交流



オレシャさんようこそ！ みんなで歓迎。

ちょっぴり恥ずかしいな。ロシアってどんな国なんだろう？

ロシアってどんな国？クイズやダンスをしたよ。その後もお母さんたちとオレシャさんはとても仲良しになって、何度も集まって楽しいことをしているよ。



ロシアのダンス♪ 先生も踊ります！



事前にクラスの子どもの家でお母さんたちもオレシャさんと交流しました。すっかり仲良しに！



ここは昔、学校だったんですか？

そうなんだよ。

カメラで動画……緊張するう～。

湧き水を探検しに行ったところで、地域のおじさんから湧き水をこちそうになりました！

## 地域のお宝探し

カメラを持って地域に出よう！ まちの人にインタビューして、お宝を探そう！ みんなの知らなかったことやおもしろいところがいっぱい！ 僕たちだって住民ディレクターになれちゃうんだよ。地域の人たちはたくさんお話してくれたんだ。

住民ディレクター：住民自身がテレビディレクターになり、ビデオカメラで撮ったまちのいいところや話題などを素材に番組をつくります。

## 保護者・地域とともにまなぶ 担任 島田和政先生の想い

綿内小学校に赴任したばかりの4月。ボランティア活動とおして、子どもたちと保護者と一緒に、地域の方々と交流をしたいと思います。ボランティアセンターの協力を得て、高齢者施設、子育てサークル、外国から長野に来られた方との交流、地域探検など、子どもたちは地域に飛び出していきました。子どもたちには、大人が計り知れない力があり、ふだんは出会えない人たちとでもいつの間にか仲良くなっていきます。遊びや交流の中から、体全体、心全開で地域をまなんでいきます。

そんな様子を見ていると、子どもたちにとって地域に出て行くことは、学校の中や授業だけでは得られない大切なまなびになっていることを実感します。また、保護者の力も大切なポイントです。保護者の力を借りることで、学習は深まり、広がります。保護者自身も子どもたちのまなびを間近で感じる事ができ、地域を知り、多くの方と出会うことができます。

## 地域の人々のまなびとして コーディネーターの想い

島田先生は、前任校でも子どもたちと地域に出てさまざまな人と関わりながら、小さな子どもや高齢者との交流、地域の課題を発見するまち歩きなどをしていました。やりたいことを思いつくと、すぐにボランティアセンターに連絡があります。「こんな人はいませんか？」「こんなことをやりたいんだけど、どんな風にしようか？」など。ボランティアセンターでは、先生が子どもたちに何をまなんで欲しいかを聞きながら、一緒に考えます。3年生は「綿内の時間（総合的な学習の時間）」で「自分たちの地域を探検」します。

平成22年度は、ボランティアセンターで進めている住民ディレクターの取り組みをその時間に合わせて実施しました。子どもたちは大人よりずっと好奇心があり、大人にはないような視点を持っています。また、取材を受ける大人も、子どもたちが地域のことを知りたいと思う気持ちを受け止めて、たくさん話してくれます。後日、出来上がった映像を見る会を開き、ふだん何気なく目にしていく地域にも、たくさんのお宝や人材があることを地域の方も子どもたちからまなぶことができたと思います。

# 地域とつながる

田中喜美子（長野市立綿内小学校 3年礼組児童の保護者）

初めての交流は、「ケアプラザわかほ」のみなさん。4月19日に行われました。この日をスタートに、たくさんの出会いがありました。未就学児サークル「あひるっこ」のみなさん、長野市在住のロシア人女性、地域のお宝など……。

3年生になり、クラス替えに新しい先生、子どもたちにはたくさんの変化の中で素敵な出会いがありました。登校初日に届いた学級通信に「幸せだなあ学級を目指す」とありました。その日から、子どもたちが日ごとに変わっていくのです。「ありがとう」という言葉が多く使われるようになり、感謝する気持ちが育っていきました。

そして初めての交流。その日の感想文には「私はあまりできなかったけど、みなさんが楽しそうだったのでよかったと思います」「もう一回みなさんに会いたいです」とありました。子どもたちの心の中に、相手に対する思いやりが感じられます。小さな赤ちゃんに対しても、うまく言葉にできない気持ちを感じ取り「一緒に遊んでくれてありがとう」と書いています。そんな子どもたちを、小さな瞳が見つめていました。

核家族が当たり前、少子化が進み、昔当たり前だった家庭内でのかかわりが少なくなり、初めは戸惑ったと思います。ところが交流を続ける中で、子どもたちは発見し、工夫し、成長していくのです。そんな姿を見つめる中で、親も一緒に何かしたいと思うようになりました。その中で驚いたのは、子どもたちが同じ交流をする仲間として迎えてくれたことです。おかげで、わが子を気にすることなく、同じ気持ちで一緒に取り組むことができました。ロシア人女性との交流では、事前に準備をするうちにとても仲

良くなり、お互いの国の料理を一緒に作り食べるという、女性同士のかかわりが生まれました。そのおかげで、子どもたちの祖父母の方や地域の方が畑から野菜を取ってきて下さったり、温泉を運んで下さったり、やしょうまを作ってくれたり、別のつながりもできました。これはとても嬉しいことで、どんどん広がるつながりにワクワクしました。

秋には、住民ディレクターとして自分たちが生活する場所を友達と歩き、お宝を発見し、知りたかったことを思いきって聞いてみる、そんなチャンスにとってもいきいきしていました。この経験を通し、地域の方々の優しさを感じ、より身近に思えたようです。近所の知らない人から、地域の〇〇さんに変わっていくのです。安心して心からの挨拶ができるようになり、気持ちよく過ごせます。お互い知ることによって、相手を思いやることのできるのです。

地域から日本中、世界中へ気持ちを向ける、そのことを子どもたちの姿から教えられました。共に生きることが生きる力を育て、共に生きる喜びを知った子どもたちは、周りの人々、環境をすべて仲間にしていく強い力があり、「ありがとう」という言葉が生まれるように思います。そして、「幸せだなあ」と思うのです。私たちは、この気持ちをつなげるために、かかわりを広げていく手助けをしていきたいと思えます。



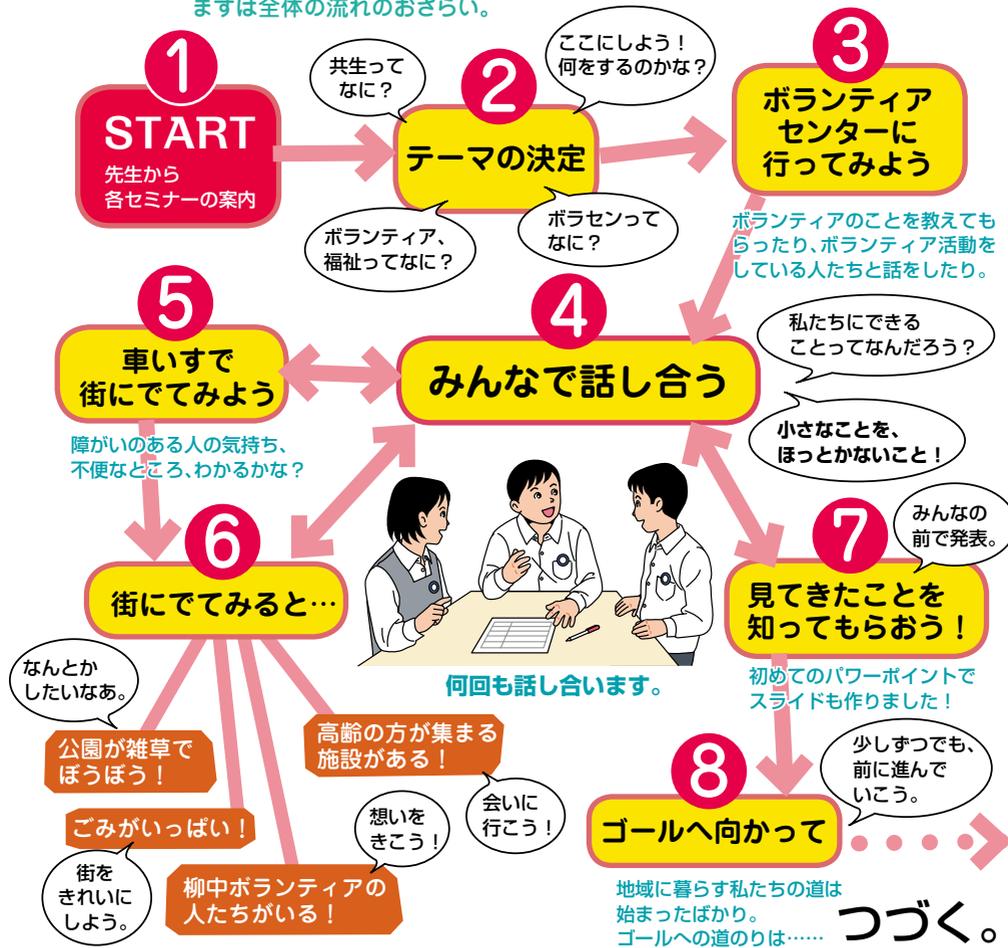
# 柳町中学校2年「柳中セミナー」

柳町中学校では、2年生全員が「柳中（りゅうちゅう）セミナー」という教科・クラスを超えてまなぶ授業があります。テーマはいろいろ。「近未来予測セミナー」「写真で語る長野」「〇〇な体になりたい!」「釣り」「共生の街づくりNAGANO」…並んだテーマを見るだけで、いったい何が起ころのかワクワク。自分で興味のあるテーマを選んで、地域の人との交流の中からまなびます。テーマを見つけ、出会い、体験し、工夫し、話し合いながらまなんでいくこの「柳中セミナー」は、実は様々な教科の学習もその中でできてしまうという、楽しい授業なのです。

## 共生の街づくりNAGANO

福祉・ボランティアがテーマの「共生の街づくりNAGANO」はこんなふうに行われました。

まずは全体の流れのおさらい。



どんなふうに行き出し、何を見て、考えたのかは次のページでご紹介します。



### ボランティアセンターを訪問



長野市ふれあい福祉センターの1階にボランティアセンターがあることも知りませんでした。初めてボランティアセンターを訪れました。「ボランティアってなんだろう？」から学習しました。ボランティアグループの皆さんは、わかりやすく丁寧に活動やその想いを話してくれました。ボラセンでは、まずボランティアの語源「Volo」の意味から教わりました。意外と知らないボランティアの本当の意味。もっと自由でいいのかあ〜。自分から動くってことかあ〜。発見がいっぱいありました。

中学生の目から見た環境への取組みもできたらいいかも。大人とは違う視点があって素敵だなあ〜。

環境のことを考えている人たちはみんな熱いなあ〜。私たちならこんなふう考えるよ。

さて、では自分たちの住んでいる地域はどんなところなんだろう。障がいをもっているひとにもやさしいのかな？車いすで出かけてみました。街には工夫もたくさんありますが、不便もあるようです。あちこちにゴミもたくさん落ちています。



ちょっとした段差でも車いすはたいへんなんだ。力も要るね。

あれえ〜？点字ブロックが壊れてるよ。これじゃ視覚障がいの人たちが困るよね！

### ゴミ拾いをして街をきれいにしよう



こんなに拾ったあ〜！これぞ達成感！

いくつかのグループに分かれて、街に落ちているゴミを拾いにでかけたり、草刈りしたりがはじまりました。

すごいゴミ！

みんなでゴミ拾いしてるの？えらいね。

通りによってゴミの種類が違うことも発見！ポイ捨てしないように呼びかけるポスターを作ったらどうかな？

公園で出会った娘さんとお母さんから、いろんな話を聞きました。街に出るとそこで暮らす人たちと出会えます。あたりまえだけど、授業で行くと違って見えるね。

### 公園の雑草を刈って、花を植えよう



公園は草だらけだあ〜！キレイにしよう。

だいぶきれいになったかな？きれいになったら花も植えたいね。

慣れない道具で慣れない作業は大変です。

### 出会い、気づき、動き出す心

担当 油井桐子先生の想い

まず生徒たちには、「福祉＝自分の身近にあること」と気づいてもらい、体験を通して地域の課題に自ら気づき、自ら動ける人になってもらいたいと考えました。自分の地域を新しい視点で見ると、気持ちが動き、地域を愛する心が育ちます。地域で共に生きる人々とのかわりについても考える機会になることを願って授業を組み立てました。

最初に、ボランティアって？福祉って？について知るため、実際に長野市ボランティアセンターを訪れ、「ボランティアってなんだろう？」を学習。ふれあい福祉センターを利用しているボランティアのみなさんに話を聞きました。

まちを違う視点から見るため、車いすで学校の周辺へ出かけ、そこでさまざまな課題に気づきました。その後も、フィールドワークと話し合いを重ね、実際に課題解決につながる活動を作り出していきます。

活動を始めてみると、思いもよらなかった出会いがあります。地域で頑張っている人や、生徒たちに温かい心を寄せてくれる人、地域に暮らす障がいがある人など……。

地域に出たことで、視野が広がり、発想を豊かにすることができました。今、生徒会を担う立場になり、柳中セミナーでのまなびが活かされるときが訪れています。

### 動き出すことで地域に共感が広がる コーディネーターの想い

車いす体験やフィールドワークでまちの中の困りごと＝「ゴミ」に気づいた生徒たちが、ゴミ拾いをするようになった時に出会ったのは、同じように地域の「ゴミ」という課題をなんとかしようと毎日活動しているおじさんでした。おじさんは、生徒たちの様子を見て、話を聞き、後日自分が今まで蓄積してきた統計レポートを学校まで届けてくれました。

また、公園の草刈りをした生徒たちは「ここに花を植えたらいいいね」と考え始めました。すると、それを知った人が「その気持ちを区長さんに話してあげよう」と申し出てくれることもありました。

子どもたちが動き出すと、そこに共感が生まれ、支えになろうとしてくれる人が現れるという連鎖がありました。人から人へ気持ちが伝わっていくことを生徒たちも実感したことでしょう。

授業が始まってから半年後、生徒たちは自分たちの取組みをパワーポイントにまとめ、全校生徒の前で発表しました。

先生から相談を受け、かかわったことで改めて「地域で福祉学習をすることの意味」に私たちコーディネーターが気づかせてもらった取組みでした。

# 地域に飛び出せば、こんな福祉教育もできるかも？

## 地元のお宝、名所旧跡、さがしてみよう！

いろんな人に取材をして、記録を残そう。地域の人に「この街のお気に入り」を覚えてもらおう！なぜお気に入りなのか聞いてみよう。

近くにあるのに、なかなか行かない名所旧跡や山。プチ修学旅行をやってみたらどうだろう。地元のお宝を大事にしたい。みんなで「行く」プロセスも大事。バスや電車でなくて、歩いて行ってみようか。そうだ、いっそみんなで山に登って、山頂参観日なんてどうだろう？

## 職業体験にひと工夫

汗水流して仕事している大人たちに出会おう。体験して失敗したら、それがすばらしい体験。大人って毎日、すごいことしてるんだなあ。

仕事って楽しいけれど、やっぱり大変。どうせ体験するのなら、そんな大変な部分も体験しよう。何を体験するのか、自分で探して、お願いをしてみるところから始めてみよう。失敗したら怒られるかもしれないし、落ち込むかもしれない。でも、地域の大人たちは毎日そういうことを普通にやっているんだ。大人になるってすごい。仕事ってすごい。

## 学校でお店をやろう！

休日は家族で車に乗ってショッピングセンターにお買い物…その影で買い物に困っている人がいる。どこにそういう人がいて、何を欲しいと思っているのか聞いて、地域のお店を開こう。

「買い物難民」なんて関係ない!? でも、近所に一人でお買物ができない人はいませんか？閉まってしまったお店はありませんか？ ちょっと本格的な「お店屋さんごっこ」。地域の人が何をほしいか調べて、お店を作って販売しよう。開店のよびかけや、売り上げの上げ方……どうしたらお客さんは来てくれるかな？ お客さんは喜んでくれるかな？

## 地域の人と一緒に行事を…

運動会、音楽会、夏祭り。ただ参加だけではなく、一緒に作り上げよう。いろんな人と一緒に楽しむためにはどんな工夫をしたらいいか、考えながらやってみよう。

たとえば、子どもと高齢の人が一緒に楽しめる競技、体に障がいがある人にもわかりやすい案内の方法は？ 出し物の先生になってくれる人、いないかな？ 一緒に作れば、一緒に楽しい!!

どれもこれも夢みたいな話？ でもこれを実現しているところもあるんです。ちょっとの工夫と、協力でできちゃいそうなことばかり。「こんなこともできるかも」「あんなこともできるかも」想像するだけでワクワクしませんか？  
学校、地域、社会福祉協議会、みんなで知恵を出し合って、その夢を形にしましょう！

## 地域の先生を探して、なんでも教えてもらおう

知りたいことがあったら、地域に先生を探そう。先生がどこにいるのかを探すには、誰に聞いた方がいいかな？

私たちが今知りたいことはなんだろう？自分たちで考えて、先生を探そう。地域にはいろんな先生がいる。教室も、学校に限らないでもいい。地域の先生のおうちに行ってもいいし、お寺や公園、博物館。どこへでも飛び出していこう！

## 衣食住できるところまで自給自足に挑戦！

畑作り、蚕、食べられる草や実の見分け方、糸を紡いで染めて織織り、小屋だって作れるかも？

どこまでできるか、自給自足に挑戦してみよう。畑で野菜を作ったり、釣りをしたり。昔はみんなやっていたこと。きっと地域に何かの名人がいる。いろんな名人に会おう。一人で何もかも全部できなくてもいい。力を合わせてみんなでできればいい。みんなそうやって支えあって暮らしてきたのだから。困ったことがあったら、話し合って考えて決めよう。さあ、どこまでできるかな？

## まちのテレビ局になってしまおう！

このまちのいいところ、ちょっと困ったところ、子どもの視点で見に行こう。地域の人も楽しんでくれる。

カメラを持ってまちをのぞいてみよう。何気なく見ているものの中に、いろんなものが見えてくるはず。地域のCMを作ってみるのもいいかも。このまちのいいところってなんだろう？

## 学校をコミュニティセンターにしてしまおう！

子どもとその家族だけでなく、いろんな人が出入りできるようにしよう。管理の責任も、使う人がみんなで取ろう。

学校は地域の人にとって大切な場所。みんな本当は、もっと学校にかかわりたい。災害が起きた時、避難所になるのは地域の学校ではありませんか？ 水道の場所、トイレの場所、知っていますか？ 学校の先生の顔を、地域の人には知っていますか？ 学校を地域みんなのものにしてしまおう。みんなが責任を持って管理しよう。みんなが知っている「あの場所」。地域の人々の心のよりどころにしたい。



教室の中だけでなく、地域にある「すくい」ものや人、気になると、その全てを素材に、子どもたちが暮らしの中にある「ふくし」の芽に気づくための「地域での福祉のまなび」を考え、実践につなげようというのが、「福祉教育研究会」のねらいでした。長野市社会福祉協議会の協力により、長野市内の先生方と、ボランティアコーディネーター、社協職員による研究会を開催し、意見交換をしました。

研究会は、先生方の現在の実践の報告(第1回)と、長野県が掲げる「学校教育における教育課程・学習指導改善の目標」の中に謳われた「重点目標3 子ども・保護者・地域と共に創る『楽しい学校』」の再検討(第2回/ゲスト: 県教育委員会)、楽しく豊かな福祉のまなびのために何をしたいかを話し合うワークショップ(第3回)という構成で行いました。

学校現場が、教科学習、福祉だけでなく多種多様の「〇〇学習」、部活動等が大変忙しいこと、安全管理や責任などの問題が悩みの種であること、「地域と共に」子どもを育てていく大切さが求められているとはわかっていても、実現が難しいというジレンマを共有しました。3回の議論の内容を、この報告書にまとめています。

地域には様々な人がいて、たくさんの知恵と課題が「ごちゃ混ぜ」にある場です。私たちは、その「ごちゃ混ぜ」の中でつながり合い、支え合って生きています。「ごちゃ混ぜ」の中から宝や課題を見つけ出したい想いは、大人も子どもも同じ。だからこそ「子ども・保護者・地域と共に」一体になってまなびあっていく機会が求められているのです。そしてこれが最も大切なものとして、全ての学習の基礎に位置付けられています(次ページの図を参照)。

福祉学習は、高齢者や障がいのある人についてのまなびだけではなく、いのちとつながりのまなび、今ここに生きる私たちを結び、課題に気づき、より幸せなコミュニティを作る行動を考えるまなびです。第3回目のワークショップでは、様々な「地域のまなび」のアイデアが飛び出しました。いのち、つながり、一人ひとりの尊さをまなぶ素材は、「ごちゃ混ぜ」の地域の中にあります。地域そのもののように、枠をはずして地域の人が混ざり合う体験こそが、福祉のまなびではないかと、改めて気付かされました。

「研究会」では、今後とも継続的にこうした議論を続けていく予定です。



長野県教育委員会のホームページから、「教育課程・学習指導・学級づくりの基本」の全文をダウンロードできます。「地域で、地域と共に学ぶ」ことについて考える出発点としてご参照ください。

[http://www.pref.nagano.jp/kenkyoi/jouhou/gakkou\\_index.htm](http://www.pref.nagano.jp/kenkyoi/jouhou/gakkou_index.htm)

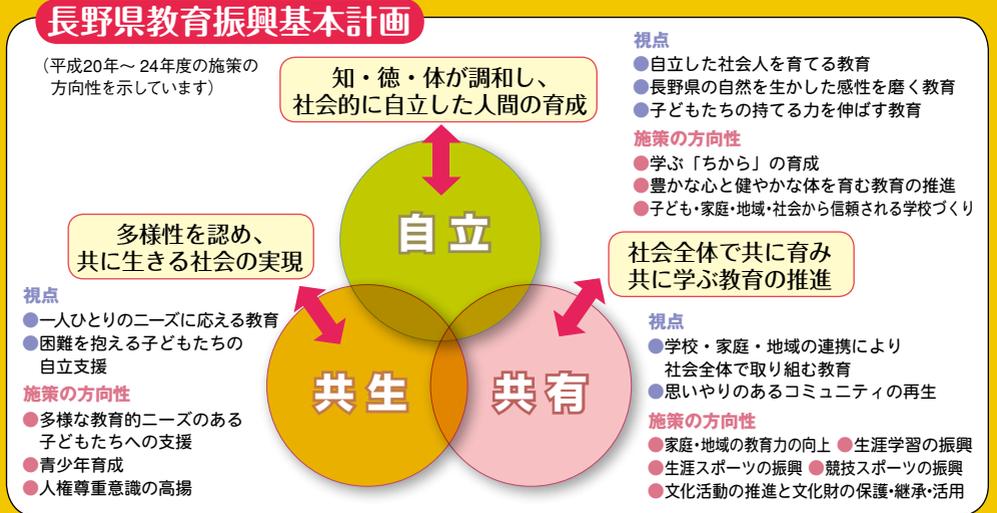
参考資料 (長野県教育委員会)

## 学校教育における教育課程・学習指導改善の目標

本県では、平成20年に策定した長野県教育振興基本計画(下図参照)において、今後10年間を通じて長野県教育がめざす姿として、「自立」「共生」「共有」の3つを基本目標に掲げ、日々の教育活動を推進しています。県教育委員会では、これら3つの基本目標と学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校教育における教育課程・学習指導改善の目標を、

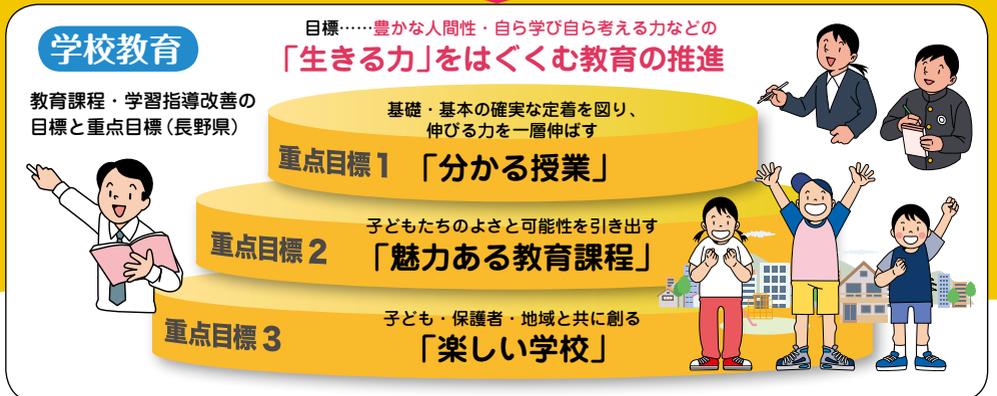
**豊かな人間性・自らまな自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむ教育の推進**

と設定し、3つの重点目標「分かる授業」「魅力ある教育課程」「楽しい学校」を据えました。



### 学習指導要領の趣旨

- 教育基本法等で明確になった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成する
- 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する
- 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成する



各学校では、3つの重点目標を大事にして、地域性を生かした学習活動や特色ある教育活動を行い、どの子にとって学ぶ楽しさと、自己の存在感や自己実現の喜びを味わうことができる学校の具現に努めることが大切です。(長野県教育委員会「教育課程編成・学習指導・学級づくりの基本」より)

地域と学校  
一緒に  
ワクワク!

# 社協と一緒に考えましょう!

お近くの社会福祉協議会にお問い合わせください。  
(市町村によって提供できる内容は異なります)



## ボランティアってなあに? 福祉ってなんのこと?

そもそもボランティアってなんのこと? 福祉って何か特別なことなんじゃない? ...それは、いまさら聞きにくい素朴な疑問。でもそんな素朴さが一番大事なのかもしれません。

## 当事者体験プログラム

(高齢者疑似体験、アイマスク体験、車いす体験、点字学習など)

「いつもこんな思いをしている人がかわいそう」...では終わらない深い気づきを引き出すまなびを一緒に作りましょう。ユニバーサルデザイン学習、障がい者とともに楽しむスポーツ体験なども。

## 収集ボランティアなどの 情報提供



エコキャップ、古切手などがどのように「寄付」に変わるのか、なぜ寄付が必要なのかを知り、地域ぐるみで取り組むためのあの手この手も考えましょう。

## 施設訪問をもっと豊かに

高齢者施設は、豊かな人生がある場所です。障がい者施設は、さまざまな工夫や発見があるところです。地域に生きる仲間同士として「友達になる」出合いの場にしましょう。



## 地域探検

「まちのいいところ探し」が子どもたちは大好き。ちょっとした工夫でまちの人が子どもたちの見守り役になってくれたり、先生方が地域を知ったりという、おまけも期待できます。



## 地域の講師の紹介

障がいを持つ人、高齢の方、外国から来た方など、地域のいろいろな人に出会う体験。「ちがいを持つ人とともに生きる」のが地域社会。社協と一緒にいろんな人に会いに行こう。



## ボランティア体験 (['サマーチャレンジボランティア'] など)



長い休みを利用して、あるいは年間を通して、お互いにかかわりあって生きている地域の楽しさ、面白さに気付く体験をしましょう。

## 機材貸出、福祉教育助成金、 スタッフ派遣、お話し相手、 その他よろずご相談承ります

視聴覚教材、ユニバーサルデザイングッズ、機材類の貸出、福祉教育助成金、講師紹介や派遣のほか、「こんなことやってみただけけど…」など、なんでもご相談ください。



まずはお近くの社会福祉協議会・  
ボランティアセンターへご相談ください。

地域のまよびで  
みんなが  
ワクワク!

市町村	名称	電話	市町村	名称	電話
長野市	長野市 ボランティアセンター	026-227-3707	千曲市	千曲市 ボランティアセンター	026-272-0252
松本市	松本市 ボランティアセンター	0263-25-7311	東御市	東御市社会福祉協議会	0268-62-4455
松本市	松本市市民活動 サポートセンター	0263-88-2988	安曇野市	ささえあいセンター 「にじ」	0263-72-3013
上田市	上田ボランティア 地域活動センター	0268-25-2629	安曇野市	安曇野市ボランティア センター 豊科	0263-72-3013
上田市	丸子ボランティア 地域活動センター	0268-43-2566	安曇野市	安曇野市ボランティア センター 明科	0263-62-2429
上田市	真田ボランティア 地域活動センター	0268-72-2998	安曇野市	安曇野市ボランティア センター 堀金	0263-73-5288
上田市	武石ボランティア 地域活動センター	0268-85-2466	安曇野市	安曇野市ボランティア センター 三郷	0263-77-8080
岡谷市	岡谷市社会福祉協議会	0266-24-2121	安曇野市	安曇野市ボランティア センター 穂高	0263-82-2940
飯田市	飯田市社会福祉協議会	0265-53-3040	安曇野市	安曇野市ボランティア センター 本所	0263-72-1871
諏訪市	諏訪市ボランティア 市民活動センター	0266-54-7715	小海町	小海町社会福祉協議会	0267-92-4107
須坂市	須坂市ボランティア 市民活動センター	026-248-5606	佐久穂町	佐久穂町ボランティア まちづくりセンター	0267-86-4273
小諸市	小諸市 ボランティアセンター	0267-26-0315	川上村	川上村社会福祉協議会	0267-97-3522
伊那市	伊那市社会福祉協議会	0265-73-2541	南牧村	南牧村社会福祉協議会	0267-96-2363
駒ヶ根市	駒ヶ根市社会福祉協議会	0265-81-5900	南相木村	南相木村社会福祉協議会	0267-78-1001
中野市	ボランティアルーム 「あん」と	0269-23-1174	北相木村	北相木村社会福祉協議会	0267-77-2111
大町市	大町市社会福祉協議会	0261-22-1501	軽井沢町	軽井沢町 ボランティアセンター	0267-45-8113
飯山市	いいやま 市民活動センター	0269-62-3340	御代田町	御代田町社会福祉協議会	0267-32-1100
茅野市	茅野市社会福祉協議会	0266-73-4431	立科町	立科町社会福祉協議会	0267-56-1825
塩尻市	地域福祉・ ボランティアセンター	0263-52-2795	長和町	長和町社会福祉協議会	0268-88-3069
佐久市	佐久市 ボランティアセンター	0267-64-2426	青木村	青木村社会福祉協議会	0268-49-2129
佐久市	佐久地域 ボランティアセンター	0267-67-2463	下諏訪町	下諏訪町社会福祉協議会	0266-27-7396
佐久市	臼田地域 ボランティアセンター	0267-82-4332	富士見町	富士見町社会福祉協議会	0266-62-6766
佐久市	浅科地域 ボランティアセンター	0267-58-0383	原村	原村社会福祉協議会	0266-79-7228
佐久市	望月地域 ボランティアセンター	0267-51-1520	辰野町	辰野町 ボランティアセンター	0266-41-5558

地域のまよひで  
みんなが  
ワクワク!

まずはお近くの社会福祉協議会・  
ボランティアセンターへご相談ください。



市町村	名称	電話
箕輪町	みのわ ふれ愛センター	0265-70-1061
飯島町	飯島町社会福祉協議会	0265-86-5511
南箕輪村	南箕輪村社会福祉協議会	0265-76-5522
中川村	中川村社会福祉協議会	0265-88-3552
宮田村	宮田村社会福祉協議会	0265-85-5010
松川町	松川町社会福祉協議会	0265-36-3778
高森町	高森町 ボランティアセンター	0265-34-3001
阿南町	阿南町社会福祉協議会	0260-22-3151
阿智村	阿智村社会福祉協議会	0265-45-1234
平谷村	平谷村社会福祉協議会	0265-48-2220
根羽村	根羽村社会福祉協議会	0265-49-2288
下條村	下條村社会福祉協議会	0260-27-2858
売木村	売木村社会福祉協議会	0260-28-2004
天龍村	天龍村社会福祉協議会	0260-32-2277
泰阜村	泰阜村社会福祉協議会	0260-26-2162
喬木村	喬木村社会福祉協議会	0265-33-4567
豊丘村	豊丘村社会福祉協議会	0265-35-1122
大鹿村	大鹿村社会福祉協議会	0265-39-2865
上松町	上松町 社会福祉協議会	0264-52-3560
南木曽町	南木曽町 社会福祉協議会	0573-75-5516
木曽町	木曽町社会福祉協議会	0264-26-1116
木祖村	木祖村社会福祉協議会	0264-36-3441

市町村	名称	電話
王滝村	王滝村社会福祉協議会	0264-48-2008
大桑村	大桑村 ボランティアセンター	0264-55-3755
麻績村	麻績村社会福祉協議会	0263-67-3099
生坂村	生坂村福祉 ボランティアセンター	0263-69-1122
山形村	山形村社会福祉協議会	0263-97-2102
朝日村	朝日村社会福祉協議会	0263-99-2340
筑北村	筑北村社会福祉協議会	0263-66-2506
池田町	池田町社会福祉協議会	0261-62-9544
松川村	松川村社会福祉協議会	0261-62-9000
白馬村	白馬村社会福祉協議会	0261-72-7230
小谷村	小谷村社会福祉協議会	0261-82-2430
坂城町	坂城町社会福祉協議会	0268-82-2551
小布施町	小布施町 社会福祉協議会	026-242-6665
高山村	高山村社会福祉協議会	026-242-1220
山ノ内町	山ノ内町 社会福祉協議会	0269-33-1105
木島平村	木島平村 社会福祉協議会	0269-82-4888
野沢温泉村	野沢温泉村 社会福祉協議会	0269-85-4347
栄村	栄村社会福祉協議会	0269-87-3020
信濃町	信濃町ボランティア まちづくりセンター	026-255-5926
飯綱町	ボランティアセンター	026-253-1001
小川村	小川村社会福祉協議会	026-269-2255
長野県	長野県社会福祉協議会	026-226-1882

社会福祉法人

長野県社会福祉協議会

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-291-5180  
E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/

2011年3月発行